

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			定員対しのスペースは確保している。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			利用者の数や特性に合わせた配置を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		完全なバリアフリーではないが、安全の確保はできている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			毎日の実施状況を記録し、問題点について話し合い、改善につなげている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者の意向を把握し、一つひとつ考査し改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○		評価結果をまとめて保護者に通知する予定 ホームページ作成予定
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者委員会を設けていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			外部研修はより多く参加したい。会社全体の研修開始。内部研修を復活したい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			半年に1回は、また、必要に応じて職員全員でのモニタリングと保護者との個別面談を実施して、個別支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			様式を統一している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			全職員で立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			季節や子ども達の希望を加味し工夫している。毎週アクティビティを変更し新しい取り組みを提供している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			季節や一日休みでない取り組みイベントを計画している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			学校と家庭を繋ぐ場としての、適度な個別活動と年齢を超えた集団活動とのバランスを考えて実施している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎日実施している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			必ず終礼を行い、一日の様子を共有。日々のヒヤリハット共有。支援内容の検討。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			保護者への記録と毎日の個別記録を実施。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			ベースとして利用している。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児童発達管理責任者が必ず会議に参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			保護者からの連絡と学校からの送迎時、直接先生からヒヤリングして支援の連携を図っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	現在、ケース対象となる利用者がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			定期的に児童相談支援事業所に行き情報共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	現在そういったケースの利用者が存在しない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			定期的に行き、連携をとっている。全体会議に参加。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	特別に活動はしていないが、お出掛け等の現場で交流している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	初めて参加したので、これからも参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時や通信等で日々保護者とコミュニケーションを図り、共通理解を深めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	面談時や訪問時に助言や情報提供をしている。進路や日々の悩みについても相談を受けている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			面談時や訪問時に助言や情報提供をしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	今年度はコロナ感染回避により家族会は開催されていないが、連携及び支援は継続して実施している。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情申し立て先を重要事項説明書に明記し、適切に対応出来るようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月、通信、予定表等の情報を保護者に配布している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			個人情報の契約書をかわし、同意を得た上で取り扱っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			様々な方法によるコミュニケーションを図っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		今後地域住民との交流を考えている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			マニュアルを作成し、契約時や更新時に説明周知してもらっている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年2回防災訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			毎月一回虐待防止について研修会を実施。適切な対応をしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○		現在、ケース対象となる利用者がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	現在、ケース対象となる利用者がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			行っている。

保護者向け

放課後等デイサービス評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	23	6	1	
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	25	5		いつもきちんとスタッフが対応している。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	17	13		バリアフリーがそれほど必要な子はいない。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(i)が	30			作成されている。
	5	活動プログラム(ii)が固定化しないよう工夫されているか	28	1	1	コロナ禍で仕方ないが少し固定気味。沢山工夫して取り組んで下さり、助かっています。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	10	16	4	良く分からない。
保護者への 説明責任等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	30			面談や送りの際、子どもの状況をお話し、してくれる。
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	32			
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	30			いつも相談に乗って下さり親も有難く助けてもらっています。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	16	7	コロナ禍なので仕方がない。別になくてもいいかな。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	28	2		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	29	1		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	30			通信や予定表、子ども達の写真を毎月楽しみにしている。
	14	個人情報に十分注意しているか	30			契約の際同意している。

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	27	3	面談時に説明してくれている。良く理解出来ていない。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	29	1	年に2回行っている様子を聞いている。
	17	子どもは通所を楽しみにしているか	30		スタッフの方が優しいので子どもが楽しみにしている。いつも楽しそう。
	18	事業所の支援に満足しているか	30		いつも本当に有難うございます。

(i) 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

(ii) 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 31 日

事業所名 キッズステーション東近江

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		スペースは確保	
	2	職員の配置数は適切である	○		特性に応じて配置	お出掛けや食事作り等、危険が多い場合は多めに職員を配置し、安全の確保をする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	△		安全の確保	小さな段差や玄関の出入り口等を分かり易いよう工夫。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員全員が参加	キッズ君ノートや職員会議ノートを活用し、日々全員が確認。改善のための対策の話し合いを設ける。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		意見を全員で確認し改善策を立てている。	結果を重視し、お互いが注意し合い、良い支援に向け検討を重ねている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		結果報告を通知	ホームページにて公開。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者委員会は設けていない。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修への参加 内部研修の充実	研修委員会設置。会社全体で研修を実施する予定。研修報告書の提出。施設内では定期的に常勤持ち回りで、研修テーマを決め発表。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもや保護者も案を提供している。	より多くの方からのアセスメントを活用する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		統一されている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全員で立案	多方面からの意見を取り入れ変化ある立案をしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		内外部より多くの意見を参考	子ども、保護者、職員等多くの意向を参考。コロナ禍での新たな活動を考案し実施。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		季節や一日でないと出来ない事を工夫	お出掛けの下見や物作りのチェックを重ねる。活動出来る時間を配慮して計画。日々の活動計画と実施。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		年齢を超えた活動と子どもの状況を考慮して実施	集団活動と個人活動を組み合わせ個々の能力を引き出す。学習シートを作成。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、当日の支援方法を確認	打ち合わせの中で意見交換をしている。リーダー制を取り入れ、活動の指針の明確化を図り活動する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼を毎日実施し、課題や問題点を共有	職員会議録に残し、気づいた点の対策を立て次に生かして行く。ヒヤリハットの案件。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		保護者への記録と個別記録を実施。	全職員にも必ず、子どもの日々の様子が確認できているか検証していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に職員間で意見交換をし、見直す	モニタリングを定期的 to 実施し、紙面にて記録を残す。個人的なチェックノートを作り、日々確認する事も場合により必要。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		活用している		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理責任者が参加	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		適切に対処	情報が取りにくい状況も起こるので、柔軟に対応出来るよう平素より関係を密にする。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	対象者がいない	てんかん等の疾病については、日々職員間で対応を勉強し主治医の確認も取っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		情報共有している	定期的に児童相談事業所に行き、情報共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	△			相談員や障害福祉サービス事業所と情報交換していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		毎月通信を配布常に情報交換している。	課題の多い子どもや家庭環境による、問題等お互い、意見交換し、助言を受けている。研修にも参加して行きたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	△		外出時の交流を大切にしている。	情報を取り入れ、交流の機会を増やしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	△			積極的に参加し、状況を常に把握していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		個別面談や送迎時、コミュニケーションを密に取る。	共通理解を深める為、平素より相談しやすい環境を作る。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	△		必要に応じ、支援	個別面談時や送迎の際支援。状況により事業所内での話し合いを設ける。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時だけでなく面談等でも再確認	保護者からの質問に対しても常に対応。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談、訪問時相談、悩みに対応	家族が多忙により、コミュニケーションが取りにくい場合も事業所から声かけをしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		感染回避により、紙上にて詳細を配布。	今年度は新型コロナの影響で会の開催は避けたが、同様の連携、支援は継続。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情申し立てを説明書に明記・説明	保護者での考え方の違いを考慮し、納得できる説明や対応を基本に整備する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、通信及び予定表を配布	利用時の連絡帳を活用し、その都度情報を発信する。携帯のラインを活用しての発信。
	35	個人情報に十分注意している	○		契約書で同意を得た上で活用	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			疾病や服薬を管理し保護者との情報を考慮
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	△		環境作りやコミュニケーション作り	事業所の行事や取り組みに参加できる声かけをしていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	契約、面談時に説明	毎月の通信からも情報を発信して行く。新たなマニュアル作成はその都度報告。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年2回実施	子ども達全員の理解及び適切な行動が出来るよう平素より、連携を考え話していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	毎月虐待についての研修開催。	毎日の伝令の際に、再確認。日々の事例検討により、実情に添った防止策が必要。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		現在、対象者はいないが身体拘束についての研修を実施。身体拘束委員会を設置済。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		現在、対象者はいないが食物アレルギーについての学習は引き続きして行く。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	多くのヒヤリハットを作成	全職員が確認し、ヒヤリが事故に繋がらない

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和5年3月31日

事業所名 キッズステーション東近江

保護者等数(児童数) 36人 回収数 30人 割合 83%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	23	6	1			できる限り対応して行きたい
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	25	5				適正な職員を配置している
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	17	13			バリアフリーを必要とする子はいないのである。	安全の確保は出来ている
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	30					
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	28	1	1		やや固定気味。沢山工夫されている。	コロナ禍であったが新しい活動をもっと増やして行きたい
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	10	16	4		あまり聞いたことがない	今後対応して行きたい
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	30					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	30					
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	30				いつも相談に乗って下さり有難いです。	傾聴を大切に情報提供出来るように。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	16	7		コロナ禍で仕方ない。別になくてもよい。	保護者が参加する機会を増やしたい
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	28	2				
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	29	1				
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	30					保護者に対して、結果を送付している。昨年度よりホームページ作成。
	14 個人情報に十分注意しているか	30					
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	27	3				理解してもらえよう分かり易く説明している
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	29	1				年2回訓練実施。通信にて報告している。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	30				毎日楽しみにしている。	
	18 事業所の支援に満足しているか	30				大満足です。	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

① 7…第三者委員会は設けていない。

22・41・42…対象となる利用者が現在はいない。

② 独自に必要なと思われる評価項目はない。

③

- ・評価項目について気付いた点は、契約や個別面談等で説明していたことが保護者さんに理解されてきている事で、引き続き根気よく説明していきたいと思う。コロナ禍で、保護者会や遠くへのお出掛け、食事作りや外食等が制限されてきた中、子ども達の遊びへのアイデアや発想に驚き、ルーム内や近場での活動でもかなり満足して楽しめたことが大きな収穫だった。今後コロナが落ち着いてきたら、よりプログラム等、利用者の特性を見ながら広い視野で季節感を生かした事が出来るように、していきたい。多くの利用者や接する中で、一人でも嫌な思いをしないよう、子ども同士の関わりに目を配ってより良い支援を目指したい。キッズ東近江に来ることを楽しみにしている子ども達が多いので、常に優しさと思いやりを持ち、一人ひとりが成長できる事業所でありたい。
- ・内部研修や虐待委員会の設置等、新しい取り組みが実施出来たので、引き続き来年度も内部・外部共多くの研修に参加して職員の意識の向上に努めていきたい。

○サービスの質の向上に向けて取り組む課題

前回までの評価において、サービスの質の向上に向け取り組む課題を設定している場合はその内容と進捗状況を、また、新たに今回の評価によって今後取り組むべき課題がある場合も、その内容を記入してください。

関連する項目	内容および進捗状況	新規 継続 終了	取り組みの期間 (〇年〇月から〇年〇月まで)
虐待防止、及び身体拘束 における委員会の設置	年に一回以上研修会に参加し、発表及び研修報告書を記載し、スタッフ全員で共有していく。毎月虐待防止について話し合いを実施し、良い支援をしていく	新規 及び 継続	令和5年4月～令和6年3月
キッズノート活用	出勤日や時間が一定でない現場で情報共有や、研修内容を確認、学習する。	継続	令和5年4月～令和6年3月
活動プログラム	スタッフ全員及び利用者、保護者の意見を参考にプログラムを作成し毎月配布。	継続	令和5年4月～令和6年3月
施設内研修	研修する項目を年、数回決めて、勉強会を開く。	継続	令和5年4月～令和6年3月
リーダー制	毎日、リーダーを決め、始まりの会やアクティビティの進行終わりの会を中心になって活動する。	継続	令和5年4月～令和6年3月

サービス改善計画書

策定日：令和5年3月31日

事業・サービス名：放課後等デイサービス

施設・事業所名：キッズステーション東近江

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
37	△	地域とのつながりが薄い	地域の人とのコミュニケーションを増やし、事業所の取り組みをお知らせする。環境美化の活動を実施する。	令和5年4月～	岩崎	
8	△	コロナ禍で減っていた研修に積極的に参加する。	外部研修だけでなく、内部研修を定期的を実施し講習や発表の場を作る。	令和5年4月～	岩崎	
32	△	保護者同士が参加し、職員や子ども達と活動する機会が少ない。	活動の状況を発信し、参加できるよう計画する。お互い連携出来るようにする。	令和5年4月～	岩崎	
1	△	施設内の環境整備	壁紙等の簡易修繕が目立つので、整備が必要。	令和5年4月～	岩崎	